

JAM熟練技能継承事業ニュース

発行：2013年2月22日
JAM熟練技能継承推進室

熟練技能者「教育」を語る

～埼玉で熟練技能者の情報交換会を開催～

JAMが熟練技能継承事業で埼玉県の高校や中小企業で技能指導をしていただいている熟練技能者を集めた情報交換会が2月7日にJAM北関東会議室で開催された。

参加した熟練技能者は9名で、コーディネーター1名と事務局2名をあわせ12名が初めて一堂に会し、経験談や指導にあたっての思いなどについて語りあった。

特に多く出された意見は、「何事も教育が大切である。特に、生徒を指導する大前提として、教員が基礎的スキルを習得する必要がある」と生徒の指導にあたる本来の姿にするべきとの発言が異口同音に出された。

また、熱心に教えていた教員が他校に転出して学校の取り組みが後退する問題や、学校間に設備の格差がありすぎる問題なども取り上げられた。

一方、指導を行った中小企業については、企業によって技能教育に対する取り組み姿勢が異なっている。会社を挙げて熱心な企業に対しては、モチベーションも高まって指導にも熱が入ると嬉しそうに語る熟練技能者が印象的であった。

参加した皆さんからは、「熟練技能者同士が情報交換する場はこれまでになく、とても良い機会を設定してもらった」との声が寄せられた。



平成24年度の指導実績の事務局報告を聞く皆さん



「生徒の前に教員への指導が必要」と新井さん



「会社挙げて指導に立ち会うところも」と伊藤さん



「機械科の先生が代わると大変」と小松崎さん



「孫のような生徒に社会勉強も」と千葉さん



「検定1級は精神面の指導も必要」と茂木さん



「先生たちの指導をもっとすべき」と話す吉田さん